

## 1. 津山市における就学前教育・保育カリキュラム策定にあたって

### 子どもを取巻く状況と子ども政策の動向

近年の子どもを取巻く状況をみると、急速な少子化や核家族化の進行、共働き世帯の増加に加え、地域のつながりが希薄になり、家庭や地域の子育て力・教育力が低下するなど、環境として厳しい現実があります。

このような社会状況の中で、子どもたちは生活体験や自然体験が不足し、他者とのかわりの機会も少なくなってきました。そのため、基本的な生活習慣が身についていない、自制心や耐性・規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下している、といった問題も指摘されており、保育園（所）・幼稚園における幼児教育の果たす役割は、非常に重要性を増してきています。

今後の方向性として、まず第一に、研修等を通じて保育士・教員等の資質や専門性の一層の向上を図り、保育園（所）・幼稚園における乳幼児の健やかな育ちをしっかりと保障することが求められます。そして、乳幼児保育・教育の充実が、家庭・地域社会へと大きく広げられるとともに、その成果を円滑に小学校に引継ぐことができるように連携を進めていかなければなりません。

### 津山市の現状と課題

津山市においても、少子高齢化のなか核家族化が進み、かつてのような家族や知人、地域の人々による家庭の子育てをサポートする体制が弱まってきており、家庭の養育力・教育力の低下が懸念されています。また、共働き家庭の増加等により、子育て支援に関する市民ニーズが多様化する中で、幼稚園においては園児数が減少し、保育園（所）においては入園希望者が増加している状況です。

こうした中で、私立保育園23園、公設民営保育所2園、公立保育所3園、私立幼稚園3園、公立幼稚園14園は、共に併存する乳幼児保育・教育機関として、それぞれが重ねてきた経験や実績を活かし、特色のある保育・教育を実践しています。

今後においては、これまで以上に保育園（所）と幼稚園が連携を強めることが不可欠であり、そのために、「発達に応じた育ちや学びの連続性」を踏まえたカリキュラムを共に作成し、保育課程・教育課程に位置づけた保育・教育を実践することで、子どもの最善の利益を保障していくことが求められています。

さらには、関係機関が一体となって研修等を深め、乳幼児保育・教育に携わる者の資質・専門性を高めることが必要です。

また、津山市でも、入学したばかりの1年生が環境の変化になじめない「小1プロブレム」といわれる現象がみられることもあり、子どもの成長・発達連続性と一人一人の子どもの健やかな育ちを願う保育園(所)・幼稚園・小学校の連携の重要性が増しています。このため、育ちと学びを小学校へとつなげる為に、各保育課程・教育課程に位置づけるなどの取り組みをしていかなければなりません。

近年、特に支援や配慮を必要とする乳幼児が増加しており、保育園(所)と幼稚園での理解や対応が非常に重要となっています。このような中、より細やかな対応が出来るように各保育園(所)・幼稚園や関係機関で適切な研修を行うなど、保育・教育内容の向上を図っていく取り組みが進んでいます。今後は、受入れに対するより専門的な知識をもった職員を育成することや、特別な支援における拠点的機能を有する施設の在り方などが課題となります。

津山市においては、平成19年度に今後の公立幼稚園の方向性についての検討がなされ、平成20年度には津山市における幼児教育の歴史において、初めて市内の公立・私立それぞれの保育園(所)・幼稚園の関係者が一堂に会し、「津山市幼児教育検討委員会」が開催されました。

注1)

そして、「津山市における幼児教育の理念と展望」を示し、この「理念と展望」に基づいた保育・教育を実践するための「津山市の子ども保育カリキュラム」に基づいて、保育園(所)と幼稚園が連携し、乳幼児保育・教育の推進を図っていくことを目指しました。しかし、実際の取り組みが浸透せず、実践が課題となっています。

このため、「理念と展望」に基づいた保育・教育を実践するために、改めて関係者が共に「津山の子どもを育てる」という共通の認識に立ち、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を作成することとなりました。

注1)

「津山市における幼児教育の理念と展望」は、平成22年3月に策定した「津山市公立幼稚園将来計画」において、「津山市における幼児教育の基本理念」として定められました。